長洲町立長洲小学校　校長便り　№１００

みんなの居場所

裏面の話題

みんなの居場所の裏面は、小学生にとって必要ではないかと思う問題、漢字、諺、慣用句等々を載せていきます。ご家族の団らんの話題にしてみてください。会話が広がります。

令和５年６月１９日(月)

【雑感】指導者とは

とある名門高校野球部の監督がこの様なことを言っている。

「いくら指導者が熱を入れても、選手側が『やらされている』という意識でダラダラ練習をしていたのでは何の進歩もない。やる気の一発は、やらされてることの百発にも勝る。」

思うに、指導者は選手や児童生徒の「やる気」、すなわち「主体性」を引き出すことが仕事なのではなかろうか。

私も指導者の一人だが、指導だけやっていると疲れることがある。私などは特に知識もあまり無く情報の引き出しも少ないので、子供たちに教えること等、あまり持ち合わせていない。それよりも子供達の「やる気」を引き出すための手立ては何かなかろうかと考える時間の方が長かったように思う。併せて、主体的な「学び」の楽しさを伝えてきたように思う。教え子達から聞くこの言葉は今でもとても嬉しい。「あの時は楽しかった！」今では社会人となった教え子たちに、人生の楽しさを伝えられるように自分自身をアップデートしている。

「心のきずなを深める月間」に寄せて

６月は「心のきずなを深める月間」です。この月間の取組の視点の一つに「いじめ防止」があります。まず確認しておきたいことがあります。それは法律です。「いじめ防止対策推進法」と言います。この法律に、次のような条文があります。

「第４条：児童等は、いじめを行ってはならない。」

この条文に照らせば、いじめは違法行為になります。罰則規定はありませんが、絶対にしてはいけないことです。いわゆる最近のいじめは、我々が子供の頃とは少々様変わりし、単なる暴力だけではありません。言葉やＳＮＳ等によって辱めることもいじめです。

いじめが発生するのは仕方がないことだという人がいますが、それは間違いです。何故なら、いじめは人の命に係る重大なことであり、実際にそのような事件が起きているからです。法律の制定も２０１１年大津市で起こった中２自殺事件から、制定が加速していった経緯があります。

学校では、いじめとはいえなくても子供同士の小さないざこざはたくさんあります。その殆どは、相手に対して自分が優位に立ちたい、自分の思い通りにしたいものだから、暴力や言葉、ＳＮＳ等を利用して相手を辱めるのです。そして、そのような子は人を叩き、ののしり、そのくせ自分の権利ばかり主張することが多いです。カ、言葉　スマホやＳＮＳを使って人を貶めるのはすべて暴力ですね。暴力でねじ伏せられ、辱められる気分を自分に当てはめて考えてみると、いじめは絶対にいけないということが分かるはずです。

更に、我々大人の責任も考えたいです。子供の自由を尊重することと甘やかすことは違います。間違いを起こしても叱らないということは、大人としての責任を果たしていません。目標を持たせず、ただ自由に、そして甘やかすことだけは避けなければなりません。明るい未来社会のために、大人としての責任を果たしているか考える必要があると思います。

シリーズ「自分を語る」＃１００

長崎視察研修の後、それぞれの研修施設では研修そのものの大詰めでした。研修のまとめとして、支援団体、研修受け入れ組織の代表者の方々の前で研修成果のプレゼンも行わなければならず、研修員にとっては忙しい年末年始でした。殆どの研修員がそれぞれの組織で年末年始を過ごし、日本の正月を味わっていました。ただ一人だけ、韓国の研修員チェさんだけは公務員ですので、研修先の人達もお休みを取っています。さて、どうしたものか？と思って、チェさんに年末年始の予定を聞いてみると、何と韓国から奥様が来日されるということでした。宿所でゆっくりされるということでしたが、日本の正月の雰囲気を味わって頂くべく、我が家にご招待と相成りました。この時の様子が研修のまとめに記載されていて、私も嬉しく感じましたね。

その様な中、研修員、留学生の帰国に向けて、粛々と行う事務手続きが行われていきます。来日と同様に、それぞれの帰国に税金を使いますので、最も合理的で安く帰国できるようにしなければなりません。しかし、帰国に関してはあまり手間を取ることはありませんでした。どの研修員にもスムーズに帰国の日程が決まっていきました。

１月末、海外技術研修員の帰国です。福岡空港からの帰国だったのは、アジアの研修員、中国、タイ、カンボジアの３名です。中国の研修員、劉さんが帰国の途に就きました。彼女は涙を流し、別れを惜しんでくれました。私は人とのお別れの時に「抱擁」をしたことはあまりありませんでしたが、この場面では自然に女性との抱擁ができましたね。不思議なもので、その短い瞬間に「個人レベルでは仲良くできるのに何故、国家間では諍いが起こるのか？」という疑問が湧いてきました。今でも、その疑問は私の中にあります。

劉さんのお見送りの後、タイの研修員、ロンさんと、カンボジアの研修員、キンさんは同じ便に乗ることになっていました。タイ航空のバンコク直行便です。キンさんはバンコクでトランジット、その後、カンボジアに向かいます。順調に進んでいた帰国の動き、ここでトラブル発生です。搭乗口を抜けた２人は楽しそうに話しながら、搭乗を待っていました。が、放送でタイ航空搭乗機の不具合で、機が使えないとのアナウンスがあったので。私も２人の研修員もびっくりです。暫くしてまたアナウンスがありました。どうも機が使えないということで、タイ航空の別の飛行機が羽田にあるとのことで、そこまで先ず移動ということになりました。タイの研修員ロンさんは大喜びでした。逆にカンボジアの研修員キンさんは心配顔です。見ていて面白いなぁ、と思っていましたが、私は熊本に戻らねばなりません。私も心配でしたが、熊本で連絡を待つことにしました。

県庁についてすぐに連絡がありました。ロンさんからでした。無事に東京について食事をとりましたとのことでした。キンさんはまだまだ心配しているらしく、元気がありませんでしたが、明日は東京発のバンコク行きに乗るということで、幾分か安堵も感じられました。

このようにして、５人の研修員を帰国させ、韓国の研修員、チェさんも同様に帰国の手続きが進みました。チェさんは熊本発アシアナ航空の飛行機で帰国しました。仁川（インチョン）空港経由で帰国したため、少々時間がかかりました。チェさんのご自宅は韓国の忠清南道にあるため、南下する必要があったためです。　（つづく）

※　「みんなの居場所」に関するご意見ご感想をお寄せください。（「みんなの居場所」への掲載の　可　・　不可　）